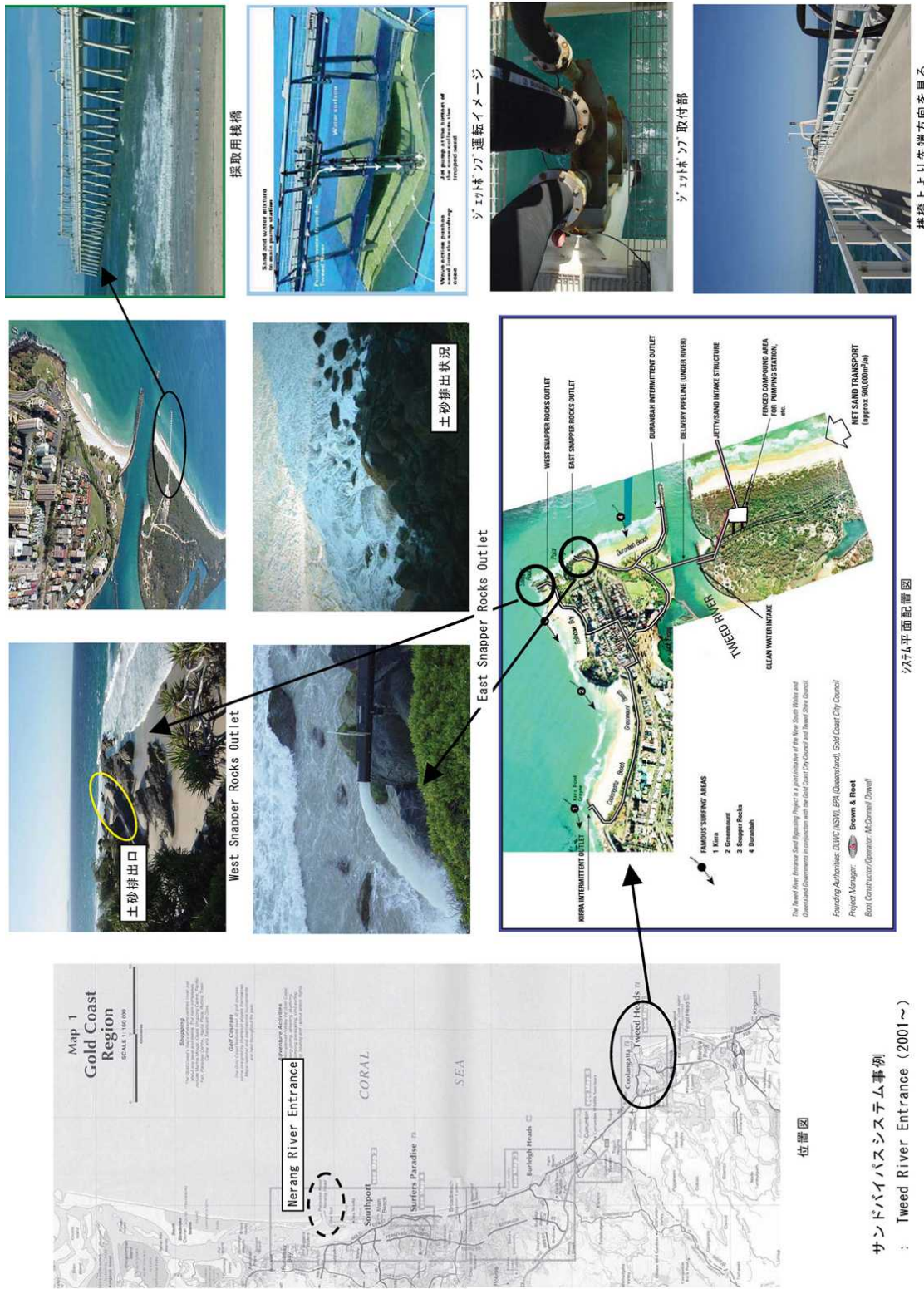


図-1.1 サンドバイパスシステム事例【Nerang River Entrance(1986～)】

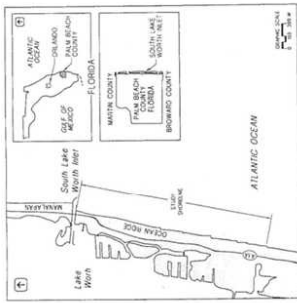
出典：福田漁港・浅羽海岸サンドパイパス検討委員会



サンドバイパスシステム事例  
: Tweed River Entrance (2001~)

図-1.2 サンドバイパスシステム事例【Tweed River Entrance(2001~)】 出典：福田漁港・浅羽海岸サンドバイパス検討委員会





位置図



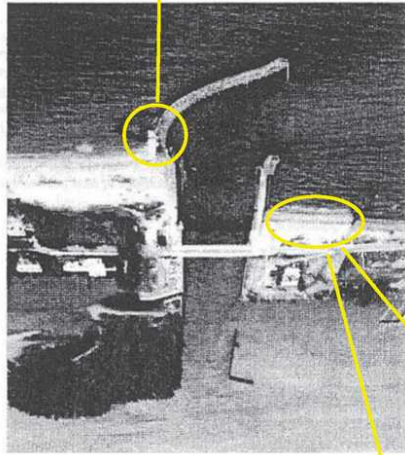
排出状況



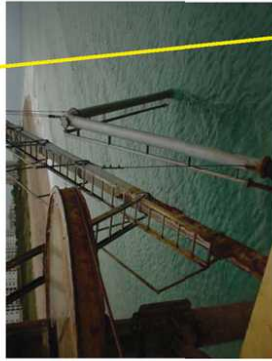
排出状況



(Lake Worth Inlet)



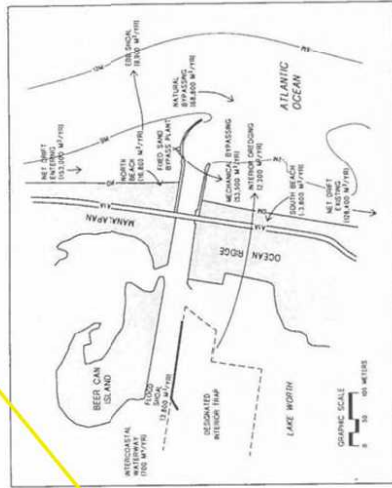
採取部分 (固定式: プーム伸縮・旋回可)



プーム部拡大 (Lake Worth Inlet)



ポンプ室

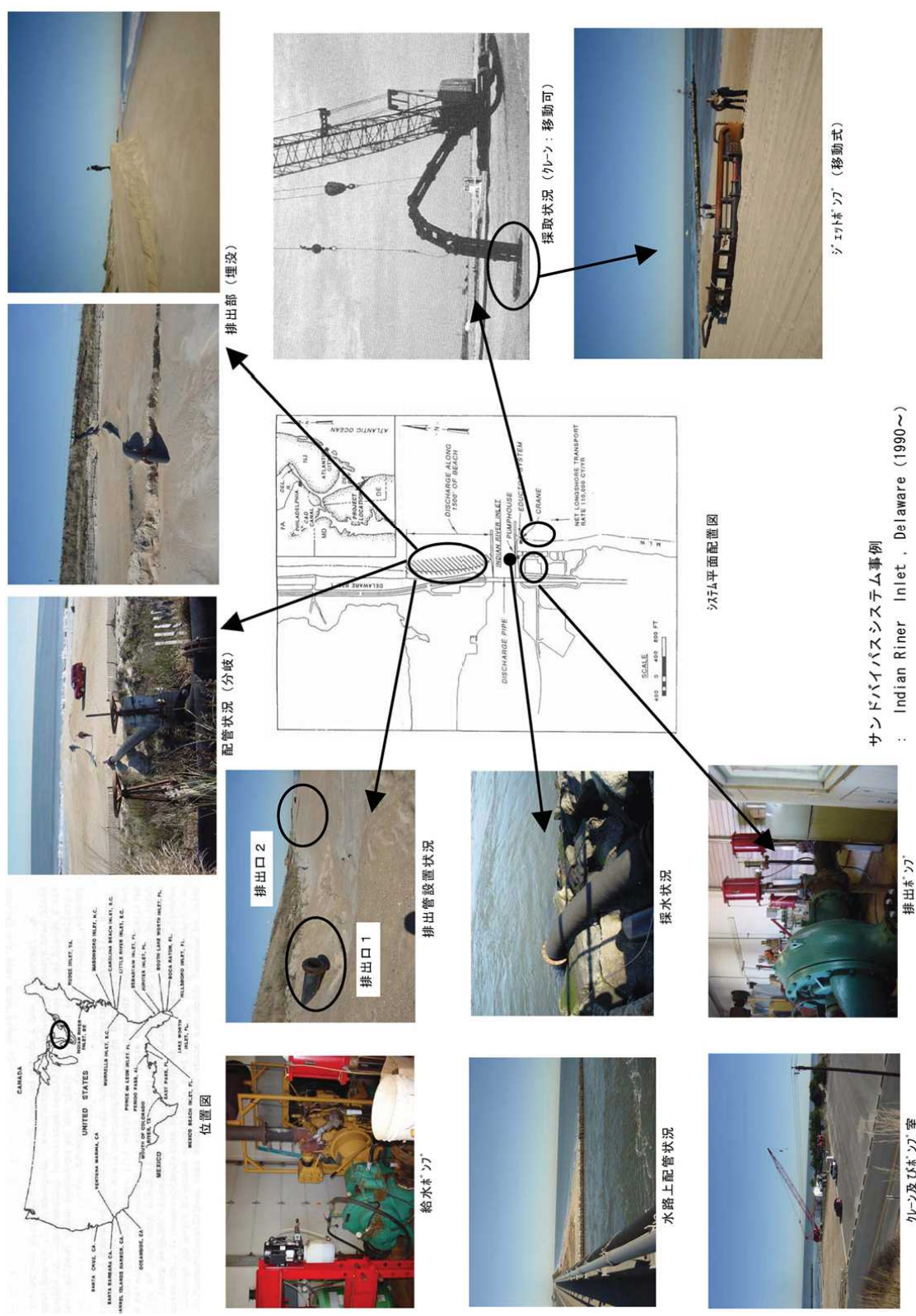


inlet 平面配置図

サントドバイパスシステム事例

: South Lake Worth Inlet, Florida (1937~)

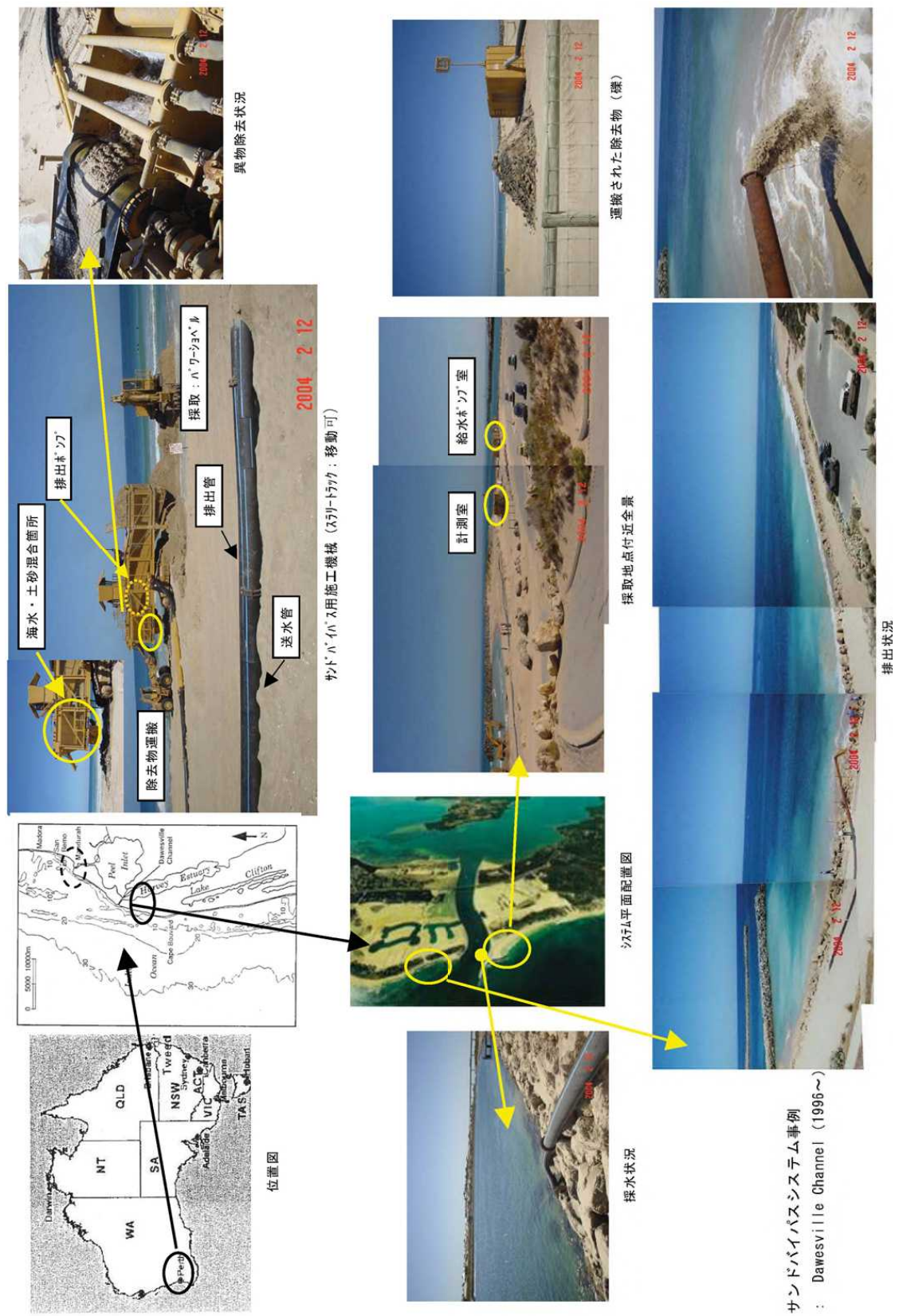
図-1.3 サントドバイパスシステム事例【South Lake Worth Inlet, Florida (1937~)】 出典：福田漁港・浅羽海岸サントドバイパス検討委員会



サンドバイパスシステム事例  
 : Indian River Inlet, Delaware (1990～)

図-1.4 サンドバイパスシステム事例【Indian River Inlet, Delaware(1990～)】 出典：福田漁港・浅羽海岸サンドバイパス検討委員会





サンドバイパスシステム事例  
 : Dawesville Channel (1996～)

図-1.5 サンドバイパスシステム事例【Dawesville Channel(1996～)】 出典：福田漁港・浅羽海岸サンドバイパス検討委員

## 2. 最近のサンドリサイクル・サンドバイパス事業海外事例調査

### 2.1 事例一覧

インターネット等で公開されている情報に基づき、現時点において海外で実施されているサンドリサイクル・サンドバイパス事業について俯瞰し、その結果を**表-2.1**に示した。

### 2.2 主要事例の調査

前節で調べた事例の中から、鳥取沿岸への適用性を考慮し、以下に示す3条件から欧州5事例、南アフリカ1事例、オーストラリア1事例、アメリカ合衆国4事例を抽出し、その概要（計11事例）を調査した（**表-2.1** および**別冊資料**参照）。

- ・条件-1 砂の移動量が 50,000m<sup>3</sup>/年程度
- ・条件-2 事業の開始が比較的最近
- ・条件-3 日本国内に詳細が未報告（**第1章**以外）

欧州では、Cap Breton（キャップ ブレトン、フランス）において、新たに浚渫量 75,000m<sup>3</sup>/年の事業が2008年より開始されている。また、Hvide Sande（ヒバイデサンデ、デンマーク）のように、港湾の外郭施設の形状を工夫して沿岸漂砂を通過させ、サンドバイパス事業を終了させた事例も見られる。

Ngqura Port（ネグラポート、南アフリカ）では、アメリカ合衆国やオーストラリアで行われているような栈橋形式の大規模な事業が始まっている。

アメリカ合衆国では、Port Canaveral（ポート カナベラル）のような大規模港湾において1995年から大型の事業が実施されている。一方、プレジャーボートや漁船中心の中小港湾では、航路の維持浚渫や水質確保のために浚渫した砂を活用したサンドリサイクル事業が頻繁に行われている。

また、浚渫方法として、既に日本国内に報告（一部採用）されている大規模な採砂栈橋を利用した方法の他に、中小港湾において、船舶に取り付けたサンドポンプなどを使ったポンプ浚渫により汲み上げた砂をポンプ圧送することで砂輸送している事例が多く見受けられた。